

まなリンク

次々 月刊

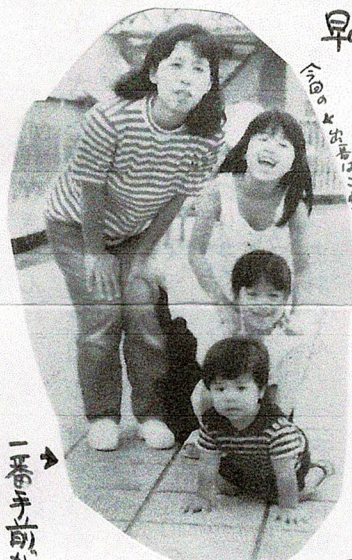


令和4年 4月号

早めに薬と点鼻薬で花粉症が出ないけれど！

春、うれし知らせ

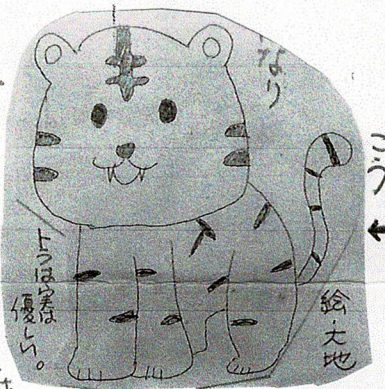
「〜に受かった。」
「え〜!! 思いもかけなり〜!」
「三番目(長男)から10ヶ月のテ
キストにすべつが凝縮。血が沸とう
した。」
「就職が決まったんだ。もう、あげえ
だ。」
「早くもお母様はこれだろ」



「現在-22年」

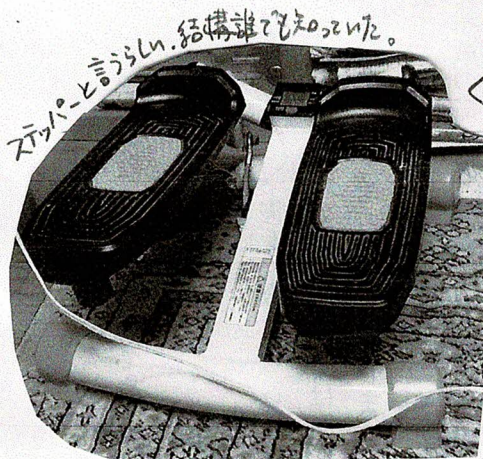


「現在-54年」



「現在」

「耳のあたりを絵で描いた。こうしたら何か
かかからぬ」
「トラは可愛い
可愛い。」

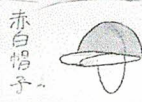


「最初にはスライ
スライと、段々
スライススライ
スライと進む。さ
らに滑ると、最初
の頃よりも滑る
ていく。」
「早く滑る
ていく。」

運動の追加 生来の飽きっぼ

「さから、ゆる運動は続かない。やて
るの自宅から実家の自転車通勤
だけ。」(坂道ありの約18分)
「で、部屋見たらこれがず」とほた
らかした。たの
ごや。こみた。

「早速電話。こいつ出るかなんても
出なさんかよ」
「あ、(やた〜)」
「おお、おめでとろ〜」
「うん、ありがと〜」
「おめでとう〜とこや」
「〜」
「〜」



「このあまのこ。」「うん。」「妙体寺に
(実家作業場)持ったこといっしょいっしょ
」
「うん」

「私の計算によると、左右踏んで
一ステップとして、三五〇ステップで50歩か
これ10分かかる。五セットで250歩か
だから、万歩メーターから進んでみると
一歩に相当。5.5分よ。」

焼き菓子宅配 手作り

「焼き菓子の製作に20分、20分、同
級生と情報交換。これは散々試行
錯誤くり返ししたレシピだ、という
のにたまにならって話す。」
「〜〜。これは清々。中まで甘々
で素材がくどい。」
「オーブンレンジ5分、つま撮り、ここ
どうにかもあけて、おたの感想い。
オーブンレンジが、予熱化せぬは。」

リモートは楽しく。

「すかり、焼けた
リモート作業
昔は家の遊びと結構面白
今も面白い。昔は、こ
こに、こころなしてみよ
と、思っていた。夜後まで
見るのが面白くなるかも。
思うと実行できたらいいな。

爪を切る

父が部屋で転んで、起こしきらんけん来て、と母から電話があった。それだけ言っただけ切れたので、そうは難しい状況ではないけれども、一人では無理だということがわかったので、実家へ。

父は床に毛布にくるまって寝そべっていた。脚がうまく曲げ伸ばしできないので、自力で起きるのは無理。痛しやしよるね、と母に聞くと、んんねそぎゃんこつは言いよらっさん、ただ起ききらんだけ、と言う。なら大丈夫、起こして車椅子に腰かけさせればよい。とは言っても、上半身の筋肉は全く落ちていない、要するに重い。その父を起こすのはかなりの力がある。やたらするとこつちが腰を抜かしてしまふ、情けないけど。まあなんとかだった。

ふと父の手を見ると、爪が長い。血色のいいピンク色で、栄養状態は何も心配いらないけど、だいぶ長い。爪切りなかな？と母に伝える。肉ば切るかしたけん切り

きらんだったたい、あだが切つてやるね、と母。

父の手は冷たい。脚も、冷たい。父の手を握り、爪を切る。確かに、母ではないが、爪の下の肉を切ろうとしてしまふ。どんなに近くても、自分の手ではないから、深爪の痛さも、肉に刃を立ててしまふ痛さも、切る私はわからない。目で見ても、当たったときの痛さを想像し、当たらないようにと慎重に。

父の右手は、左手よりも小さい。筋肉に欠ける。父は傷痍軍人である。右手の筋は切れていて、字を書くのも箸を使うのも、元々右利きの父だが左で行う。

父の手足は、もうずっと前から父の意志で自由に動かすのが困難になった。介護施設での歩行訓練をしても、それは現状維持も難しく、徐々に動きはつらくなっていつている。しかたがないけれど。

足を出そうとして出ない。膝を曲げようとして曲がらない。右手で物をつか

もうとして、つかめない。けれども父は、自分の体が自分の思い通りにならないことについて、嘆きの言葉を吐くことはない。それどころか、動く範囲、できる範囲で充分満足しているように見える。

車を運転しながらその事を考える。私の手は、ハンドルを思った通り回すことができる。私の足は、アクセルとブレーキを私の意志で踏むことができる。自分の頭も、自分の意志でものを考えることができる。

そのことに、感謝。まず自分自身の幸せに、感謝。

そんなことを書くこうと思った。(了)

文・坂田 眞成

注、2011年の文章です。父が亡くなって早九年になります。